



作文 2部

農林水産大臣賞

## 祖父に学ぶ米作り

山形県庄内町立余目第一小学校四年

松浦蒼一郎

ぼくの家は農家です。祖父と父が米作りをしています。祖父と父が作る米はとてもおいしくてぼくの自慢です。ぼくも春に種まきを手伝いました。二十キログラムの種もみが入ったふくろはとても重くて、

「よっこらしょ。」

と言って持ち上げて機械に入れるのに、祖父は軽々と持ち上げて機械に入れます。

祖父は力だけでなく、米作りの様々な知識も豊富です。小さいとき、祖父と父が、

「地面の温度がまだ十二度だな。」

と話しているのを聞いたことがあります。小さいぼくは何のことかわかりませんが、今年の夏に読んだ本の中に、『田んぼの苗を植えるには、地表面の温度が十三度以上になる五月の連休から』と書いてありました。父と祖父は田植えの時期の相談をしていたのでした。祖父は苗を育てる時、春の気温の低い時期はハウスで苗を守るが、守りすぎても弱い苗になってしまふ。だから、苗本来の力を信じて強い苗を育てることが大切だと教えてくれました。田植えをする時も祖父のたくさんのお知恵と工夫があると思えました。

稲を田んぼで育てていることにもわけがありました。それは稲が水の好きな植物で、田んぼの水には稲を育てるための養分がたくさん溶け込んでいるからでした。ぼくの家の田んぼも北楯大堰と最上川の栄養がいっぱい入った水で稲が育っていることを祖父に教えてもらいました。祖父は田植えの後に朝夕毎日のように田んぼの見回りをして、田の水の調節をしています。それは、寒さや大雨、病気から稲を守る仕事だったと気づきました。こんなに一生けん命に世話をしているにも、台風などで稲がだめになったときは涙が出るほどくやしいと話してくれました。だから、祖父は天気にも病気にも強いじょうぶな稲を作るために、稲の成長状態に合わせて適切な量と種類の肥料をあたえるように工夫をしているそうです。長年の経験による判断が必要になるそうです。祖父は農薬を使わずに作る有機米作りに挑戦しています。農薬を使わないので、虫がついたり病気になったりして豊作になる可能性はほとんどありません。それでも有機米作りに挑戦する祖父はぼくの自慢です。

祖父に話を聞いて、米作りは決して簡単ではなく、頭と体を使う大変な仕事だということがわかりました。米を作る農家にとって稲を育てるということは、失敗の許されない真剣勝負です。だから、今日も祖父と父は一生けん命汗を流して、秋にたくさんかがやく米を実らせるためにがんばっています。そんな祖父と父をぼくはかっこいいと思います。

もうすぐぼくの家でも稲刈りが始まります。田んぼ一面に稲穂が広がっています。今年もぼくも稲刈りに挑戦してみようと思います。そして祖父からもっとたくさん稲の育て方や秘密を教えてください。もうおもうと思っています。